

コリントの信徒への手紙一：学びの手引き

十字架につけられ復活されたキリストに属することは、分裂した教会をどう変えますか。

コリントの信徒への手紙一は、賜物に恵まれながら分裂する会衆に語ります。パウロは指導者、性、結婚、食事、礼拝、復活をめぐる争いをイエス・キリストへ立ち返らせます。十字架は地位の追求を覆し、復活は身体と今の忠実さに永続的な意味を与えます。目標は、自分の重要さを見せつけるのではなく、真理、聖さ、愛を通して互いを建て上げる共同体です。

背景の中で手紙を読む

パウロは、しばらく滞在する予定のエフェソから書いています。一般的な年代設定では紀元50年代半ばです。クロエの家の人々からの報告とコリントの信徒の質問が、執筆のきっかけの一部です。往復の全書簡は残らないため、彼らの標語や派閥の再構成には注意が必要です。パウロ自身の著作と広く認められ、16章は教えを旅行とエルサレムへの献金に結び付けます。

聖書の参照箇所: コリントの信徒への手紙一 1章10～17節・コリントの信徒への手紙一 7章1節・コリントの信徒への手紙一 16章5～9節

出典: primary, brown

論の流れをたどる

それぞれの訂正を、キリストにある共通の帰属への訴えの一部として読みましょう。1～4章は対抗意識、5～10章は身体、人間関係、自由、11～14章は集会での礼拝を扱い、15章は希望をキリストの復活に基礎付けます。愛は賜物を方向付ける目的で、飾りの挿話ではありません。奉仕の役割や特定の賜物の継続について理解は異なりますが、他者を建て上げる召しは共有されています。

聖書の参照箇所: コリントの信徒への手紙一 1章18～31節・コリントの信徒への手紙一 12章1節 - コリントの信徒への手紙一 14章40節・コリントの信徒への手紙一 15章1～58節

出典: primary

対抗意識に挑む十字架

コリントの信徒への手紙一 1章1節 - コリントの信徒への手紙一 4章21節

パウロは、尊敬する教師を中心に自己理解を築くことを退けます。神の知恵は十字架につけられたキリストに現れ、キリスト者の働き手は神に責任を負う奉仕者です。世の知恵への批判は、杜撰な思考への招きではありません。地位や雄弁さを霊的真理の尺度とする高慢への挑戦です。

考えてみよう

教師を競い合う帰属の源ではなく奉仕者と理解すると、何が変わりますか。

聖さと身体

コリントの信徒への手紙一 5章1節 - コリントの信徒への手紙一 6章20節

パウロは、深刻な性的な不品行と信徒間の訴訟に向き合います。教会の戒規は共同体の行動を扱うもので、虐待や、外の人への独善的な監視を許可しません。身体が重要なのは、キリストに属し、復活へ向かうからです。悪徳の一覧には清めと恵みを思い起こす言葉が伴い、人を見下す許可にはなりません。

考えてみよう

キリストに属することは、自由と身体への責任についてのパウロの説明をどう変えますか。

結婚、独身、召し

コリントの信徒への手紙一 7章1～40節

パウロは結婚、性的責任、別離、独身についての質問に答えます。結婚を劣ったものにせず独身での奉仕を尊び、夫婦には互いへの義務があると述べます。イエスの教えへの言及と、特定の状況に対する使徒としての判断を区別しましょう。奴隷制への助言は既存の強制的制度を背景とし、人間関係の理想を示すものではありません。

考えてみよう

どの助言が特定の状況に応じたもので、どの関心が繰り返しパウロの助言を導いていますか。

他者の益を求める自由

コリントの信徒への手紙一 8章1節 - コリントの信徒への手紙一 10章33節

偶像についての知識だけでは、共に食卓を囲むとき愛が何を求めるかは決まりません。パウロは自分の権利を制限し、イスラエルの荒れ野の物語で警告し、市場の食べ物と偶像礼拝への参加を区別します。成熟した自由の用い方は、すべての不安を最終基準にせず、他者の益を求めます。

考えてみよう

パウロは通常の食事と礼拝への参加をどう区別し、なぜ隣人の良心が重要だとしますか。

互いを尊ぶことと主の晩餐

コリントの信徒への手紙一 11章1～34節

パウロは祈り預言する女性を扱ってから、富が教会を分断する食事の問題に向き合います。頭の覆いの詳細には議論がありますが、主にあって互いに依存するという説明が含まれます。主の晩餐では、キリストを記念することと、集まった体を認め気遣うことを切り離せません。

考えてみよう

社会的特権や他者の軽視は、主の晩餐が告げることとどう矛盾しますか。

一つの体、多様な賜物、一つの目的

コリントの信徒への手紙一 12章1節 - コリントの信徒への手紙一 14章40節

霊は共通の益のためにさまざまな賜物を与え、愛がその使用を意味あるものにします。霊的な誇示より、理解できる言葉と秩序ある参加が大切です。14章34～35節の女性への指示を11章5節と併せて読みましょう。その範囲と適用にはキリスト者間で違いがあります。議論を認めながら、教会を建て上げる明確な召しに従います。

考えてみよう

話す人を目立たせるのではなく、他の人の理解と参加を助ける実践は何ですか。

復活が忠実な働きに意味を与える

コリントの信徒への手紙一 15章1節 – コリントの信徒への手紙一 16章24節

パウロは、受け継いだキリストの死、埋葬、復活、顕現の宣言を振り返り、信徒の将来の復活を論じます。霊の体とは神の霊によって変えられた体であり、身体をもつ命の否定ではありません。最後の献金と旅行の指示は、この将来の希望を日常の忠実さと結び付けます。

考えてみよう

パウロが復活の論証を、世からの逃避ではなく今の働きへの励ましで結ぶのはなぜですか。

出典

- [primary] 1 Corinthians; primary biblical text. Reading references only; no Bible text is reproduced in this resource. <https://ebible.org/eng-web/1CO.htm>
- [brown] Raymond E. Brown, An Introduction to the New Testament (Doubleday, 1997), chapter 22. Background and scholarly discussion; not an endorsement of every interpretation in this study.

独自に制作した本文と画像：CC BY 4.0。聖書本文と第三者の素材は対象外です。

Pauline Letters · CC BY 4.0 · <https://paulineletters.com/ja/explore/resources/study-1-corinthians>